

平和記念だより

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念館
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号
TEL: 087-833-2211 FAX: 087-833-2244



高松市平和記念館開館

平成28年11月23日（水）高松市平和記念館が、たかまつミライエ5階に開館しました。



高松市平和記念館は、戦前・戦時下、高松空襲、終戦・戦後、平和への取り組み・核兵器の廃絶へと4つに区分し、過去から現在までの時間の流れを踏まえて、未来の平和を考えるきっかけを作ることができる記念館です。

高松市のジオラマ、高松空襲6人の証言、戦時中の生活や映像・図書の閲覧コーナーもあります。

入口近くの企画展示コーナーでは、最近の収蔵品や、テーマに沿った展示を随時行っています。

※ ご利用案内 ※

開館時間：9：00～17：00 休館日：毎週火曜日、年末年始
入館料：無料



新しくなった平和記念館で、皆さまのご来館をお待ちいたしております。



平和記念館開館記念パネル展 12月17日(土)～21日(水)開催しました

開館を記念して、たかまつミライエ1階多目的室で平和作文・詩の最優秀・優秀作品と、高松空襲のパネルを展示しました。

「良い戦争はない、悪い平和はない」という理念を伝えるべく、開館記念事業「平和のつどい」に先がけての展示でした。



高松市平和記念館開館記念事業 平和のつどい

平成28年12月22日（木）、たかまつミライ
工1階多目的室において、高松市平和記念館開館
記念事業「平和のつどい」を開催しました。



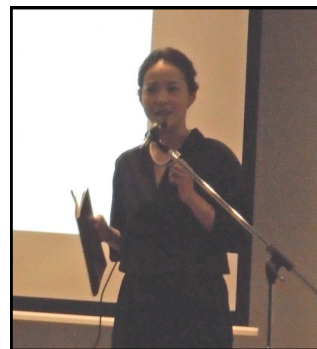
平和記念館開館事業の一環で、高松
市内の小・中学生に対し募集を行っ
た、平和に関する作文・詩の最優秀・
優秀作品の選定を行いました。第一部「平和への
思い」では、最優秀賞受賞者の大西高松市長によ
る表彰を行った後、受賞者ご本人より作品を朗読
いただきました。



第二部「高松空襲体験の伝承」では、高松空襲
被災地であった旧市街地の小・中学生の皆さんに
よる朗読、そして香川県立高松桜井高等学校放送
部の朗読劇が熱く演じられました。



最後に、木内
晶子氏（女優、
うどん県副知
事）による朗読
で、閉会となり
ました。



開館記念事業～平和のつどい～の感想

高松空襲が、若い世代を通
して次の世代へと語り継ぐ
取り組みが行われていること
に感動しました。

（40～50歳代 男性）

なんで戦争をしたんだろ
うと思った。体験談を聞
いていて悲しかった。

（小・中学生 女性）

子どもたちの作文・詩・
朗読はすばらしかった。
高松桜井高校の朗読劇も
すばらしかった。

（70歳以上 女性）

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

平成28年度 教職員のための平和教育講演会

平成29年1月5日（木）、たかまつミライエ1階多目的室において、「教職員のための平和教育講演会」を開催しました。

とまつり

今回は、「高松空襲を記録する会」の戸祭恭子氏を講師に迎え、高松空襲体験談を語っていただきました。また、新しくなった平和記念館の映像学習室他展示品を活用した平和学習の推進について紹介しました。

1931年満州事変の年生まれ。高松空襲後、親戚を頼り丸亀市に身を寄せた先で、14歳でありながら身内3人の最期を看取った経験。空襲後に見た非情な光景、乳飲み子が若い母親の死体の乳房をまさぐっていた記憶は、戦後60年経過して、ようやく初めて語ることができたと言う。



学校教育が平和への基礎であると講演中の戸祭氏

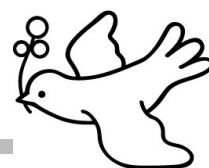
凄絶な空襲体験談を通して戸祭氏のメッセージは、平和とは何か、そして、そのことを今こそ伝承していかなければならないということでした。

戦争のむごさは筆舌に尽くし難く、また、当時はそれを口にするすらできなかった最中、良識ある教師の励ましが、忘れがたい思い出であるとのことでした。

生きる力、命の大切さを教えてくれたのは、“学校の先生”であったとのことお話し、教員の皆さんにも印象深く響いたのではないのでしょうか。

「自分の体験談ではなく、平和である限り聞いた話として語り継ぐことができ、そうして語り継ぐことこそが、平和が続くことにつながっていくのです。」と切実な願いをこめてお話を終えられました。

教職員のための平和教育講演会の感想



空襲の体験談を詳しく聞いたのは初めてだった。今思えば、なぜにと思うような不自由な当時の雰囲気伝わった。更にそんな状況下でも、平和を望む気持ちを持つ人々のことを思った。いずれも教育というものとの関わりがあり、教育の功罪と大切さを感じた。

(50歳代 男性)

東京大空襲のような日本史で学ぶようなことは聞いたことがあったが、地元で起こったことを聞いたのは初めてで、ずっと心にとどめ置きたい話だったと思った。

(20歳代 女性)

実体験を踏まえての「戦争になったら取り返しがつかない」という言葉に重みを感じました。

(50歳代 女性)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

収蔵品紹介53 ≪最近の収蔵品より≫

【ミス香川 里帰りの記録 写真パネル】

提供者 今岡 重夫 様

提供者は、香川県親善人形の会の会長である。1927年、日本とアメリカの間で行われた親善人形交換の歴史や意義を学ぼうと1996年に結成された会の責任者である。

結成から21年、当初の目的をほぼ達成し、2017年3月を以て終止符を打つこととなり、この間の成果資料を平和記念館で活用してほしいとのことで寄贈いただいた。



この写真パネルは、1998年に香川からアメリカのノースカロライナに贈られた答礼人形「ミス香川」を一時帰国させ、修復して送り返すという、一年と一か月余りの長い期間をかけた「ミス香川里帰り運動」の一部始終を37枚の写真パネルにしたものである。

人形交流の「親善と平和」の意味を平和記念館の「青い目の人形」コーナーで伝えていき、写真パネルもこれからの平和啓発事業の中で活用させていただく予定である。



今後の行事予定

高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

【日時】平成29年3月23日（木）～29日（水）

【場所】高松市香川図書館2F 渡り廊下展示コーナー



編集メモ

高松市内の小・中学校の児童・生徒のみなさんを対象にして、平和作文・詩の募集を初めて行いました。ご応募作品の審査中、読みながら涙を誘うほどに心を揺さぶる力作もありました。

戦争体験が次世代へ語りつがれ、平和な世界を願う市民の心を継承する施設【高松市平和記念館】に、多くの方がご来館くださいますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。



▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>